

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 567

| | |
|-------|------------|
| 事務事業名 | 生活排水対策推進事業 |
|-------|------------|

| | | | |
|------|------------------|----|---------|
| 作成日 | 平成 28 年 9 月 30 日 | | |
| 部局名 | 大村市上下水道局 | | |
| 課名 | 業務課 | | |
| 課長名 | 坂上 正信 | 内線 | 53-1116 |
| 担当者名 | 村田 敦 | 内線 | 53-1116 |

| | | |
|------|--------|------------------|
| 基本目標 | | 機能的で環境と調和したまち |
| 政策 | 050304 | 快適で暮らしやすい都市環境の整備 |
| 施策 | | 上下水道の整備 |
| 関連施策 | | |

| | | | |
|-------|--------|------------|--|
| 会計 | 一般会計 | | |
| 款 | 4 | 衛生費 | |
| 項 | 1 | 保健衛生費 | |
| 目 | 5 | 公害対策費 | |
| 事業コード | 030000 | 生活排水対策推進事業 | |

| | | |
|------|---|-----------|
| 事業類型 | 4 | ソフト事業(任意) |
| 個別計画 | | |
| 重点事業 | | |

【PLAN(計画)】

| | | | | |
|------------------|--|---|-------|---|
| 対象(者) | 誰(何)に対して事業を行うか | | | 公共下水道、農集排水計画区域外における高度処理型浄化槽の設置者及び適正な維持管理を行う浄化槽使用者 |
| 意図 | 対象をどのような状態にしたいか | | | 公共用水域水質保全のため、公共下水道・農業集落排水計画区域外の生活排水対策として高度処理型浄化槽の設置による全世帯水洗化を図る。また、浄化槽の維持管理費の一部について補助金を交付することによって、設置後の適正な維持管理を徹底させるとともに公共下水道・農業集落排水利用者との負担格差をなくす。 |
| 事業概要 | 意図を達成するために実施することは何か | | | ①公共下水道・農業集落排水計画外における高度処理型浄化槽の設置者に対し、設置補助金を交付する。 ②浄化槽の適正な維持管理を条件として、その維持管理費の一部について補助金を交付する。 ③既存住宅において水洗化に伴う改造工事に必要な資金の融資が受けられるようあつ旋し、償還金のうち利子分を補給する。 |
| 事業期間 | 昭和 62 年度 | ～ | 平成 年度 | 実施方法 補助 |
| 根拠法令、要綱等 | 大村市合併処理浄化槽設置費及び維持管理補助金交付要綱・大村市合併処理浄化槽設置費に伴う水洗便所改造資金融資あつ旋及び利子補給に関する要綱 | | | |
| 国・県補助事業に係る本市単独施策 | 有 | 高度処理型浄化槽の5人槽で444,000円、7人槽で486,000円、8人槽以上で576,000円が補助基準額とされているが、市単独の上乗せ補助で551,400円、654,000円、837,000円を補助額とする。 | | |

【DO(実施)】

| 指標名(上段:名称/下段:算定式等) | | 単位 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 備考 |
|---------------------|---------------------------------|-------|-------|-------|--------|-------|----|
| 活動指標 | ① 浄化槽の設置補助金交付基数 | 計画値 | 36 | 25 | 25 | 25 | |
| | | 実績値 | 20 | 21 | 20 | | |
| | | 達成度 | % | 55.6% | 84.0% | 80.0% | |
| 活動指標 | ② 浄化槽維持管理補助金交付件数 (計画値)補助対象基数 | 計画値 | 927 | 927 | 963 | 952 | |
| | | 実績値 | 670 | 662 | 663 | | |
| | | 達成度 | % | 72.3% | 71.4% | 68.8% | |
| 成果指標 | ① 浄化槽計画区域内水洗化率 | 計画値 | 72.7 | 72.7 | 72.7 | 73.7 | |
| | | 実績値 | 72.6 | 72.1 | 73.7 | | |
| | ② 浄化槽設置人口数/対象地域全人口数 | 計画値 | 99.9% | 99.2% | 101.4% | | |
| | | 実績値 | 99.0% | 99.0% | 99.0% | 99.0% | |
| ② 維持管理適正基数/法定検査受検基数 | 計画値 | 89.3% | 91.1% | 90.7% | | | |
| | 実績値 | 88.4% | 90.2% | 89.8% | | | |

| 年 度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 全体計画 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| ① 事業費(千円) | 29,364 | 30,470 | 28,880 | 33,732 | 33,076 | 33,076 | 33,076 | 0 |
| 国庫支出金 | 1,654 | 2,734 | 3,140 | 3,970 | 4,032 | 4,032 | 4,032 | |
| 県支出金 | 3,539 | 3,682 | 3,086 | 3,970 | 4,032 | 4,032 | 4,032 | |
| 地方債 | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | |
| 一般財源 | 24,171 | 24,054 | 22,654 | 25,792 | 25,012 | 25,012 | 25,012 | |
| ② 人件費(千円) | 5,635 | 5,552 | 7,221 | 7,492 | 事業内容 | 事業内容 | 事業内容 | 備考 |
| 職員人数(人) | 0.70 | 0.70 | 1.00 | 1.00 | | | | |
| 時間外勤務(時間) | 36 | 131 | 84 | 110 | | | | |
| 嘱託等人数(人) | | | | | | | | |
| フルコスト(①+②千円) | 34,999 | 36,022 | 36,101 | 41,224 | | | | |

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

| | |
|--|---|
| 事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等) | 高度型合併処理浄化槽を設置する者に対し、市単独の上乗せ補助を含む設置補助金を交付し、設置者本人の負担を軽減し、合併処理浄化槽の設置を推進した。 公共下水道・農業集落排水利用者との負担格差をなくすために合併処理浄化槽の維持管理費の一部について補助金を交付した。 維持管理補助金においては、交付申請期間の見直し(年度末までの受付から3月中旬までへ短縮)を行い、適正な期間内に補助金を交付するよう変更した。今後は、交付申請の受付開始時期の見直し(2月から1月へ)を実施するため、浄化槽の検査機関及び清掃業者等と協議を進めていく。 |
| 事業が抱える問題・課題等 | 設置補助金の市単独上乗せ部分については、標準工事費変更や消費税率引き上げなど経済環境の変化に対応し、精査する必要がある。 維持管理補助金に係る交付処理を適正に行うため、交付申請受付期間の前倒しや申請方法の簡素化等を行う必要がある。また、下水道や農業集落排水利用者と経済的負担の公平性を図るためには、適正な自己負担相当額の見直しを行う必要がある。 |

| | | | | | | |
|------------|--|----------|------|----------|----|------|
| 妥当性 | 【必要性】 | 高い | やや高い | やや低い | 低い | 該当なし |
| | 家庭から排出される生活排水は、公共用水域への汚濁負荷の主な原因であるので、水質保全のための下水道計画区域外等における合併処理浄化槽の整備は、市内全世帯の水洗化を図るために必要な事業である。 | | | | | |
| 有効性 | 【市の関与】 | 高い | やや高い | やや低い | 低い | 該当なし |
| | 生活排水対策として、市が率先して実施すべき事業である。 | | | | | |
| 効率性 | 【事業成果】 | 高い | やや高い | やや低い | 低い | 該当なし |
| | 全世帯水洗化のために公共下水道・農業集落排水区域外に設置される高度処理型浄化槽に対し、市単独の上乗せ補助や水洗化工事の利子補給制度は、設置者本人の負担を軽減させ浄化槽の設置推進を図るのに有効な手段である。 また、維持管理補助金は、設置者の適正な維持管理(法定検査の受検、定期的な保守点検、清掃など)を促しており、平成26年度における定期検査(11条検査)の受検率は37.9%(合併処理浄化槽のみでは57.1%)に対し、本市は90.2%と高い受検率で推移している。 | | | | | |
| 効率性 | 【コスト】 | 削減の余地なし | | 削減の余地あり | | 該当なし |
| | 平成20年度から合併処理浄化槽設置費補助金及び維持管理補助金とともに補助金の上限額を引き下げた。 | | | | | |
| 効率性 | 【負担割合】 | 見直しの余地なし | | 見直しの余地あり | | 該当なし |
| | 閉鎖性海域である大村湾に面する本市において、生活排水対策である高度処理型合併処理浄化槽設置費補助金への国庫補助基準に対する市単独の上乗せは近年材料費等の高騰化により設置者の負担も大きいために最低限必要である。また、設置後の適正な維持管理を推進し、合併処理浄化槽利用者(維持管理費)と下水道利用者(下水道使用料)との負担の公平化を図るためには、維持管理補助金が必要である。 | | | | | |

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

| | |
|--------|------|
| 今後の方向性 | 現状維持 |
|--------|------|

| | |
|--|---|
| 内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など) | 交付件数や交付率を伸ばすために、さらに申請時期の見直しと申請方法の簡素化を検討し、下水道や農業集落排水利用者との経済的負担の公平性を図るため、最近の世帯人員ごとの平均的下水道料金の調査など、維持管理補助金の算定適正化が必要である。 老朽化により法定検査の結果が不適正である浄化槽が増加していることから、設置補助金については、新設と既設更新の内訳と推移を把握し、交付件数の増加傾向を把握する必要がある。 |
| 効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か | 維持管理補助金制度を維持し、利用しやすく改善することで適正な維持管理を促進させ、法定検査による合併処理浄化槽維持管理適正率を高い割合で推移させることができる。 設置補助金の交付件数の増加傾向を予算編成に反映させ、設置補助金の利用をPRすることができる。 |

| | | | | | | | |
|-------------|--------|-----------|--|-------------|------|--------|--|
| 1次評価 | 今後の方向性 | 担当者意見のとおり | | 2次評価 | 対象外 | 今後の方向性 | |
| | 終期設定 | | | | 終期設定 | | |
| | 意見等 | | | | 内容 | | |

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。